

脚下照顧

令和6年度 朝礼（7/1） 校長の話

今日から7月を迎えました。夏休みを前に気持ちが弾んでいる人もいることでしょう。しかし、1学期を終了する前に、4月からこれまでの取組をもう一度振り返ることが大事です。次のステップをより良いものにするために、自分の生活を振り返ってみましょう。

今日の四字熟語はそれにふさわしい言葉です。「脚下照顧」です。「脚下」とは足元という意味、「照顧」とは見つめ直すという意味です。つまり、自分の足元をよく見つめ直しなさいという意味で、曹洞宗の開祖 道元禅師の言葉といます。

「灯台下暗し」ということわざがありますが、灯台は遠くの海を照らすことはできても、自分の足元を照らすことはできません。私たちも他人のことは批判できても、自分自身のこととなると全く見えていないことがよくあります。「脚下照顧」とは、他人のことよりまず自分のことを謙虚に見つめ直して、正しい生き方をしなさいと、警告を与えてくれる言葉とっていいかもしれません。

4月の朝礼で、「はきものをそろえる」という詩を紹介しました。はきものを脱いだあと、散らかしっぱなしにしないで、ちょっと膝を曲げて手を伸ばし、きちんとはきものをそろえる。そういう動作が落ち着いた、余裕のある心と呼び覚ましてくれる、という内容の詩です。もう一度読んでみましょう。

はきものをそろえると心もそろう
心がそろくと はきものもそろう
ぬぐときに そろえておくと
はくときに 心がみだれない
だれかが みだしたら
だまって そろえておいてあげよう
そうすればきっと 世界中の人の心も
そろうでしょう

いい詩なので、皆さんには何度も読んで聞かせたいと思っています。道元禅師が開いた永平寺というお寺に行ったことがあります。その玄関には「脚下照顧」という表示の下に「はきものをそろえましょう」と書いてありました。自らの足跡を振り返り、乱れたままにしておくなと和尚さんに諭される思いでした。

4月からの歩みを振り返っていかがでしょうか。乱れたままにしておいたものはありませんか。続けようと思って途中であきらめたこと、最初は丁寧にやったのにだんだん雑になってしまったこと、4月に掲げた目標を努力もしないで放っておいたことなど、1学期を終える前に見つめ直しおきましょう。そして、はきものをそろえるようにしっかりとここで整えておきましょう。そうすれば、次の一步を心乱れず歩き始められると思います。

さて、しっかりと足元を見つめ直したあとは、夏休みを迎えます。校長先生から皆さんに、二つの夏休みの課題を送りたいと思います。

一つ目は、作文コンテストです。これまで八中ではいろいろな形で作文コンテストの応募をしてきましたが、今年から次のように学年ごとの取組として行います。

1年生は全員「人権作文コンテスト」に応募します。2年生は全員「社会を明るくする運動作文コンテスト」に応募します。3年生は「税の作文コンクール」に全員応募します。詳しい内容はプリントにして後日皆さんに配布します。それぞれ学年からの宿題という形でとりまとめます。すべて調布市の窓口に送りますから、何か賞がとれるように頑張って書いてください。

また、このほかにもいろいろなコンテストがありますが、国語の授業で紹介されると思いますので、書きたいものがあったらチャレンジしてみてください。

そして、くれぐれも注意しますが、生成AIのものをそのまま写すのは絶対にいけません。改めて言うことではないと思いますが、繰り返し注意しておきます。

二つ目は、ボランティア活動です。夏休みもいろいろなボランティア活動がありますので、八中生として、ぜひ胸をはって社会貢献をしてほしいと思います。どんなボランティアがあるかは1階の廊下に掲示されていたり、チラシが配られたりしていますが、自分の地元で見つけたボランティアを自主的に参加してきても大丈夫です。2学期に校長先生に教えてください。3年生はちょっと難しいかもしれませんが、1、2年生は絶好の機会ですので積極的に参加してみましょう。地域コーディネーターの福田さんに相談するといろいろ分かると思います。

以上で校長先生のお話は終わります。